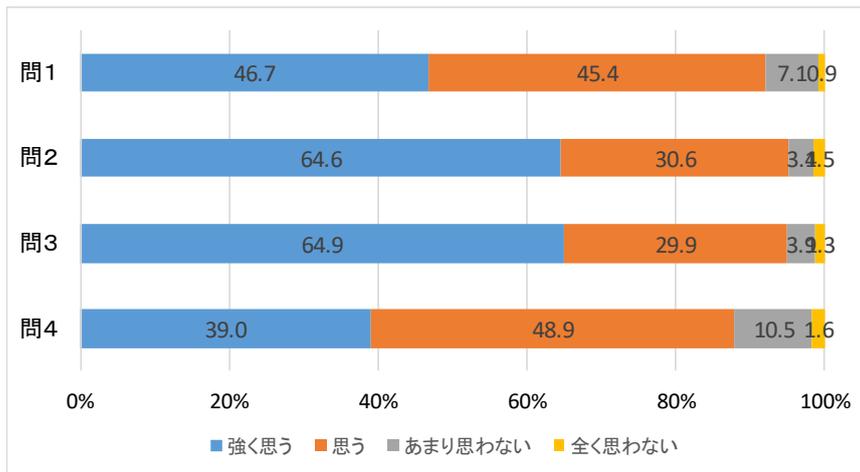


# 「SSH 記念講演」に対するアンケート報告

## ◇ 選択式回答

### ・ 質問項目

- (1) 新たな疑問点が見いだされ、問題意識を感じることができた。
- (2) 知識を活用して問題点や疑問点を深く追究すること（探究すること）が大切であると感じた。
- (3) 知識を共有するために他者とコミュニケーションを取る必要があると感じた。
- (4) この講演を聴いて、追究することに対する自分の気持ちや考えが大きく変化した。



## ◇ 記述式回答（抜粋）

〔設問〕 講義を聴いて、探究することについてあなたの気持ちや考え方の変化を具体的に記しなさい。

- 水野先生が実際に現地に何度も足を運んでいるという話を聞き、やはり自分で見て体験することが大切だと思いました。探究活動を行うにあたって、ネットや本を使って何でも調べることができる時代になりましたが、実際に見てみることでしか得られないものがやはりあるのだと感じました。今まで私は、机上で考えたり、何かを使って調べることで大半のことがわかると思っていました。しかし、先生の講演を聴いて、それで得られる知識は本当にわずかなものだと思いました。（1年生）
- 水野先生の講演を聴き、物事について探究することの素晴らしさや、問題点、結果が自分自身の人生をととても豊かにしてくれるのだと改めて感じました。私たちの探究は身近なものですが、視野を広げて観察することで見えてくる地球に及ぼした私たち人間の問題、そして普段、私たちが見ることのできない壮大な自然の美しさを知り、圧倒された時間でした。今まで、探究について興味があまり無かったのですが、今回の講演でとても興味が湧きました。（1年生）
- VTRでの水野先生や、講演されている水野先生はとても生き生きしていらして、自分の好きなことや興味のあることを突き詰めて研究することは生きがいになるのだと感じた。私は大学やその先の人生で、やりたいことはありますが、それを探究すべきか、他の道に進むか悩んでいましたが、今日の話聞いて探究するのは楽しそうだと少し気持ちの変化が生まれました。「温暖化が進行している」と様々な場面で言われていて、問題を解決しようとたくさんの方が研究して行動に移していますが、実際には温暖化を完全には止められないので、探究することの虚しさを感じました。と同時に、水野先生はじめ探究する人がいなければ、この問題はさらに深刻になっていたと思うので、探究の大

切さ、素晴らしさを感じた。(2年生)

- 今まで、課題を「探究」することばかり意識していましたが、そのためにはまず「課題」の現状について知ることが重要だということに気づかされました。また、それを発表するときには、細部の表現まで気を遣い、正しい情報を伝えなくてはならないという、当たりまえですが難しい、責任の重みを感じました。今回の講演で言えば、氷河の縮小の原因や解決策を調べるために、氷河の現状(大きさや気化しているのか溶けているのか、つらはあるかなど)を知ることの大切さを学びました。

(2年生)

- 1番に思ったのは、大学ではこういう研究ができるんだということです。大学は高校の勉強などとは違い、深く探究できる場所だと思います。でも、どうやって、何をどのように探究するのかも分かりませんでした。今日の講演で大学で、また教授になることで興味を持ったことを現地に行って発見することの楽しさやすごさを実感しました。高校の課題探究では、既に知られていることについての研究が主でしたが、これから自分は日本だけでなく、広い世界に出て、まだ誰も知らないことや、あたりまえに感じていることに対し新たな発見ができるんだと思いました。(3年生)

- 講演を聴く前は、探究とは目標にむかって試行錯誤をし、最終的にその目標を達成するというものだと思っていた。しかし、地球温暖化に伴う氷河の減少を研究するだけでなく、その問題に対して自分たちはどうすべきかという内容の講演を聴いて、探究活動を通して出した結果を、これからの未来にどう活かしていくかが、探究の本来の意味だという考え方に変わった。また、キリマンジャロの氷河の減少を自分の目で確かめられていたように、探究をするということは自分で実際に探検することだと知り、とてもためになった。自分の興味があることを自分が知りたいから探究するという意識が強かったです。自分が「課題探究」で研究していたときもまさにそうだったし、それが人の役に立ったりするとか、意識する機会があまりありませんでした。しかし、水野先生の研究は、世界の現状を明らかにし、これから先、深刻化していこう問題に大きく貢献しているのが伝わりました。自分のためだけに探究をしていくのではなく、人々に世界に貢献していくことができるのだと新たなやりがいを見出すことができました。探究の楽しみを知れ、探究することに前向きになりました。

(3年生)

#### 〔設問〕 講演内容について感じたことを自由に記述しなさい。

- 海外のことについてあまり現実味がなかったもので、実際に起こっていることを具体的に聞いて、危機が迫っていることを実感し、地球温暖化の影響の恐ろしさを感じました。また、自分が海外へ行くという想像をあまりしていなかったのですが、実際に赴き、現地の人たちの交流なども魅力的だなと感じました。(1年生)
- アフリカの研究では、自分の家に研究者を快く何ヶ月も泊めてくれる人々がほとんどだと知り、驚いた。世界に目を向けると、多くの文化にも触れられて、自分の視野が広がると感じた。私も、いつか世界の文化に触れる体験をしたいと思った。(1年生)
- 人の役に立つ研究をしようと思ったら、本当にたくさんの知識が必要なので、頑張って勉強しようと思った。何度か地図が出てきたが、地図や風向きをもとに、どうしてこうなっているのかと考慮することや、グラフを読み取って分かったことをもとに考察することで、とても納得でき、地理の面白さを知った。(2年生)

- 自分は動物の行動などについては興味があったのですが植生などにはあまり興味がありませんでした。しかし、今回の講演で環境についての興味がとてもわきました。特にナミブ砂漠の石英に鉄が付き、さびて赤くなっている、という話は自然の美しさを強く感じました。(2年生)
- 本当にあらゆる環境に行っていて、最後に「新しい環境に行くと時間が長く感じて有意義だ」っておっしゃっていたのが、印象的でした。人とのつながりの中で、いろんな研究を進めているのが素敵だなと思いました。(3年生)
- キリマンジャロの氷河の映像で 1992 年と 2002 年の比較を見て、本当に氷河が溶けるのを見て、改めて地球の気候が変わっているのを実感した。また、ナミブ砂漠の黒人と白人の居住域の違いが教科書などで見るようなはっきりしたもので驚いた。今、この世界でそのような差別が続いているのを悲しくも思った。(3年生)